

事業計画書

事業名	もっと沼津を知ろう！こどもネイチャースクール
場所	沼津市内 全域
期間	平成29年 7月 1日 ~ 平成30年 3月31日
日程	実施項目・作業項目
	<p>28年度活動実績</p> <p>7月26日 内浦地区にて海の学校開催 参加人数 11名 9月10日 香貫山にて山の学校開催 参加人数 17名 3月12日 沼津市民文化センター小ホールにて発表</p> <p>昨年度活動した上での課題</p> <p>参加者、保護者アンケートをまとめた所活動内容に関しては参加者、保護者共に満足出来るものであったが、主催者としては歴史に関する内容が出来なかった点で改善の余地がある。</p> <p>また子どもによる発表会はこの開催は良かったが多くの方に伝わったかと言う点では発信方法を改善する必要がある。</p> <p>課題の改善点として海の学校では長浜城跡を活動コースに含め、山の学校では奥アルプスに会場を変更し山城跡などから歴史に関する内容を充実を図る。</p> <p>活動を通して子ども達が主演の動画を製作、ウェブサイト、SNSで発信し市内外の多くの方に沼津を紹介する仕組みを構築し、今後県外からの<u>自然学校、修学旅行などの誘致を見据えた方法で活動を継続していく。</u></p> <p>29年度活動内容</p> <p>① 7月上旬 ウェブサイト製作、SNS アカウント取得 海学校募集開始（各校5、6年生に配布）</p> <p>② 7月28日 第一回 こどもネイチャースクール 海の学校 内浦三津浜でカヤック・SUP体験、体験を通して安全について勉強。 長浜城跡で沼津の歴史にふれ、淡島でジオサイトの観察。 （インストラクション、教材、保険代込み） 準備として7月上旬協力アウトフィッター、淡島マリンパークとの打合せ準備、荒天による予備日として8月下旬を予定。</p> <p>③ 11月 第2回山の学校募集開始。</p> <p>④ 12月 第2回 沼津こども自然教室 山の学校 参加費：6,000円 奥沼津アルプスでトレッキングしながら柱状節理、見晴し台より沼津の地形についての説明、山に点在する山城あとなど歴史について勉強をする。</p> <p>⑤ 各活動終了毎に動画製作、配信</p>

事業効果	<p>身近な自然環境を通してと沼津を見てもらう事で、住んでいる町沼津が他県と何が違うのか、魅力なのかを知ってもらう事が出来る。</p> <p>ホームページ、SNSでの発信をしていく事で全国に事業を紹介する事が出来るとともに子どもの育成に力を入れている沼津をアピールする事が出来る。</p> <p>県外からの修学旅行、自然教室などの誘致をする事が出来る。</p> <p>参加人数：2017年 40名 年2回開催 2018年 60名 年3回開催 2019年 市内対象60名 年3回開催 県外からの小学生誘致 20名</p>
------	--

※評価の視点については、募集の手引きを確認してください。

公益性	<p>町と子供、企業と子供、自然と子供、大人と子供をつなげる事業として学校では勉強できないような事を実体験を通して学ぶ機会を作る。</p> <p>活動をウェブサイト、SNSを行使って発信する事で次世代の子供達から見た沼津を多くの方に見てもらい子供が主体のまちづくりを行う。</p>
発展性	<p>子供達が参加しやすいよう参加費を低額に設定する事もあり参加費だけでは最低限の必要経費の捻出も難しかったが、補助金を活用する事で次年度以降も使用する備品や講師料の支払いを出来るようになる。</p> <p>講師料を支払える事により内容の充実を測り、備品の購入でより安全なイベントの開催が可能である。</p>
地域性	<p>沼津の自然資産を生かした活動であるとともに、沼津特有の歴史、文化、仕事、魅力を地元で活躍する企業、個人に伝えてもらう事で地域特有の知識、文化の継承を行う事が出来る。</p>
必要性	<p>自分たちの住んでいる身近な自然、産業、歴史などの魅力を知らない大人や子供が増え近年沼津市からの人口流出が多くなっている。沼津の発展の為に市民に沼津の魅力を発信して行く必要があり、内容もより地域の事に特化している事が重要である。また同時に年配者の経験、知識を今の子供達に伝え継承して行く事も今後の課題である。平行して県外の多くの方にもっと観光地以外の沼津を知ってもらう事が必要。</p>
先導性	<p>沼津の魅力でもあり資産でもある自然の中での実体験を通しながら学ぶ事で子供目線での沼津の魅力発信を行い沼津のまちづくり活性化を図る。</p>
継続性	<p>ホームページ、SNSでの情報の発信をする事で記録として残すとともに、他県の小中学校の自然学校の場合として沼津をアピール、誘致を行っていく。</p> <p>市内特有の学校教育の一つとして海、山、川を利用した自然環境教育が出来る為の土台作りと実施を行う事で年間を通して継続的に行う事が出来るようになる。</p>